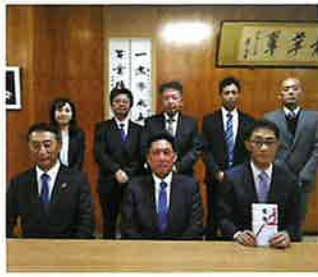


## 山陽オイルが私募債を発行

### 豊かな瀬戸内海の保全を推進



国内外の海上船舶への燃料給油業務（バンカー事業）やガソリンスタンドの運営を手掛ける山陽オイル（南区宇品西4-1-66、山本龍明社長）は、私募債（地域まちづくり貢献型）を発行し広島銀行が受託した。発行金額は3億円、期間は5年、資金使途は運転資金に充てる。また、同私募債の発行に際し10日、広島大学の生物生産学部

（東広島市鏡山1-4-4、島田昌之学部長）に、発行金額の0.02%にあたる60万円を寄付した。瀬戸内海上において船舶用燃料の供給を行う山陽オイルでは同海域の海洋環境の保全に着手している。昨年5月には、広島銀行から初のグリーンローンの実行会社として1億円の融資を受け、バイオ燃料の混合率が従来7%から30%まで大幅に引き上げた最新バンカー船「ぐろーばる6」の運行を開始。環境負荷低減や脱炭素化に向けた取組でさらなる社会貢献を図っていると語る。同グリーンローンは、エネルギーの効率化や二酸化炭

素排出を抑えた輸送など国際原則や政府が示す指針に沿うことが条件で、融資審査が厳しい一方、融資を得ることで環境意識の高さやその実現性をアピールすることができると期待している。

加えて、山陽オイルでは国泰寺高校普通科理数コースの生徒および広島大学生物水産学部の学生と共に、江田島の海岸の清掃活動も定期的に開催している。今後、同海岸に藻の植樹活動を行い「海の森林」「藻場」を生育することで水中の酸素濃度を高め、生態系の維持に貢献していく計画。食用としても優れた機能を持つ藻は、成長過程では樹木の10倍の効率でCO<sub>2</sub>を吸収する。さらに油分を蓄える性質を有し、その死骸は沈殿しやがて生物や藻類の堆肥ともな

るほか、化石・バイオ燃料の材料にも変わるなど自然環境や人にさまざまな恩恵をもたらすことが知られている。

山本社長は写真前列中央は「近年、瀬戸内海の漁獲量は、海中の栄養濃度の低下が作用して年々減り続けています。豊かな海洋環境の保全のためには藻場の生育が不可欠。藻を用いたブルーカーボンを推進してこうと地元の高校生や大学生、研究者と協力しながら動いています。また広島大学の卒業後の就職に伴う県外流出も深刻です。瀬戸内の企業への就職も視野に入れてもらいたい」と話した。

なお、バイオ燃料30%の混合燃料で動く「ぐろーばる6」は進水1周年を迎え、近く稼働効率のデータを公開する予定。